

没後30年

河本五郎展

上絵に込めた情念の美

平成29年
1月2日(月・振休)～2月5日(日)

※会期中無休

開館時間：午前9時30分～午後5時30分(最終入館は午後5時まで)

入館料：一般1,000円(4枚セット券3,000円)／

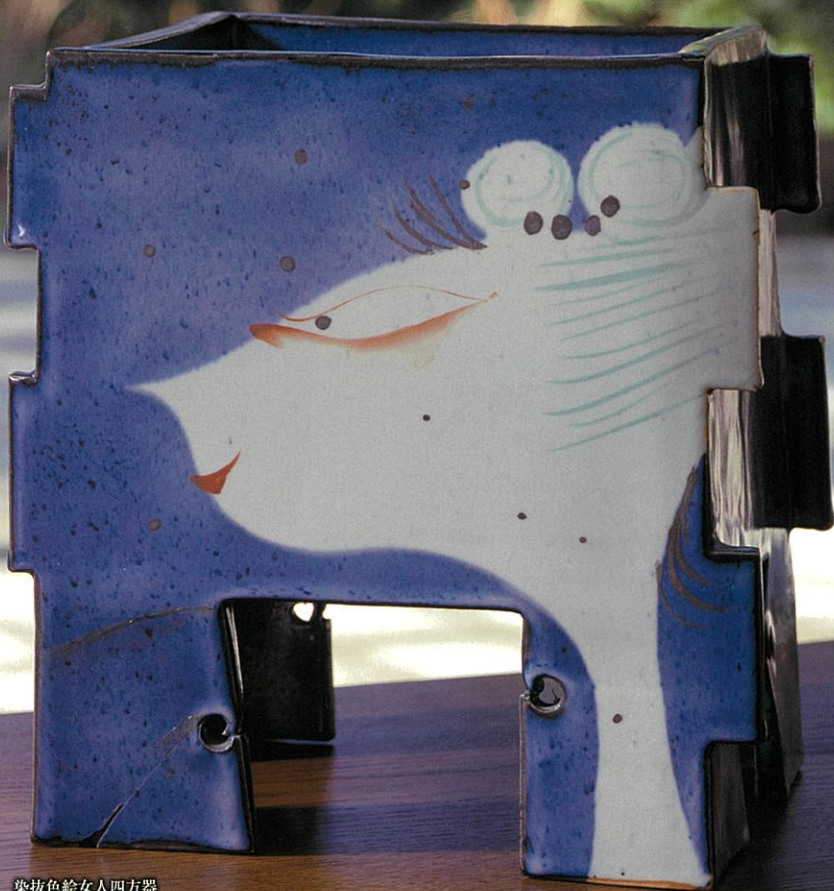
大学生800円／高校生500円／中学生以下無料

主催：公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

後援：中日新聞社、伊勢新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送

関連イベント：講演会「父・河本五郎を語る」講師：河本太郎氏

平成29年1月15日(日)午後2時



染抜色絵女人四方器
(1980年頃)

同時開催 近現代日本の巨匠たち
新収蔵品を中心に

当館のコレクションは平面作品から立体作品まで多岐にわたる作品群により構成されており、その数は4200点におよびます。本展覧会では近年新収蔵された片岡球子「めでたき富士」、中川一政「薔薇 マジョリカ壺」、前田青邨「富士」などを中心に、絵画・陶芸作品などを織り交ぜてご紹介いたします。

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 E-mail office@paramitamuseum.com

http://www.paramitamuseum.com Facebook www.facebook.com/paramitamuseum Twitter @paramita_muse

パラミタミュージアム 検索

没後30年

河本五郎展

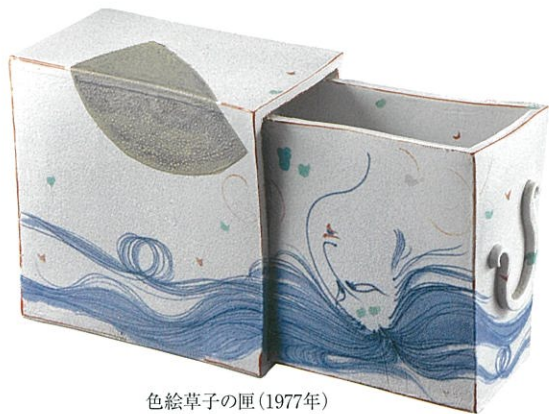
上絵に込めた情念の美

河本五郎は1919年(大正8)瀬戸市の伝統染付の家に生まれ、現在の瀬戸窯業高校を卒業後、京都国立陶磁器試験所の伝習生としてクラフト運動で名高い日根野作三の教えを受けました。また画家になりたいという希望を持っていた河本は同時に独立美術協会の須田国太郎画伯から絵の手ほどきを受けています。その後郷里に戻った河本は兵役を終えると、クラフト運動に参加しますが30代の半ばからは、より自由な造形をめざして「五郎調」と呼ばれる手びねり作品を発表します。戦後の実用陶器が中心であった時代に芸術性を求める河本は「反骨の陶芸家」として、オブジェの制作を通じて伝統と現代性を追求し、奔放な色絵を施した数々の名作を生み出しました。

今回はパラミタミュージアムが所蔵する40点を超える作品を中心に展示し、没後30年を迎える鬼才河本五郎の世界を一望します。



灰釉鳥文スクリーン花器(1960年頃)



色絵草子の匣(1977年)



藍亭幻想器



色絵鳥文花入



染銀彩歌垣方壺(1980年頃)



色絵刻鳥文花器(1973年頃)



灰釉鳥文花入

次回展示のお知らせ

会期 平成29年2月10日(金)～3月28日(火)

歌川広重 東海道五拾三次 保永堂版×丸清版

歌川広重は1834年(天保5)に発表した「保永堂版東海道五拾三次」によって、風景画家としての地位を確固たるものにした。本展では広重の代表作「保永堂版東海道五拾三次」と、その15年後の1849年(嘉永2)に発表した「丸清版隸書東海道五拾三次」を展示し、世に知られた五拾三次図とは異なる広重の五拾三次図を合わせて展観します。

■お車をご利用の場合／東名版「四日市I.C.」より国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。 ■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合／近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分、「大羽根園駅」下車、西へ300m。 ■全館バリアフリー、車椅子常備

